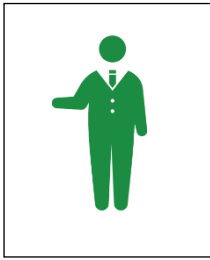


県立学校人事異動公募制度（わくチャレ）の効果的な活用について
～あなたの学校とキャリアに、新たな可能性を～

学校企画課

ステップ1 【校長】制度の利用を希望する学校が「求める教員像」を公表し、募集開始

ある校長先生方の想い



- A校長「DXハイスクールに採択されたものの、それを推進できる核となる教員がいない…」
- B校長「キャリア教育を充実させたいが、進路指導の核となるベテラン教員がいない…」
- C校長「学校全体の授業改善を進めたいが、そのノウハウを持った中堅教員がいない…」
- D校長「2年後に控える周年行事。母校に貢献したい卒業生教員とともに成功させたい…」
- E校長「多様な個に応じた指導を充実させたいが、特別支援教育の専門性を持った教員が足りない…」
- F校長「若手とベテランの間に立ち、学校を牽引する中堅教員がほしい…」

学校のグランドデザイン実現に向けた大切な課題

⇒ その解決の鍵となる人材を「求める教員像」としてまとめ、“わくチャレ”にエントリー！

※今年度からの制度の改善点

・5校に限定されていた公募校数制限を撤廃 ⇒ 希望するすべての学校がエントリー可能

※ただし、わくチャレにより人事異動が成立した場合、当該校はその後2年間エントリーは不可

ステップ2 【教員】各学校の公募内容をみながら、チャレンジしたい学校に応募

ある先生方の胸の内



- a 教員「国の採択事業に携わりたい。次の学校でそのチャンスを得られるだろうか？」
- b 教員「長年進路指導主事として培った経験を、次の学校でも最大限に活かしたい！」
- c 教員「協調学習マイスター教員に認定された経験を活かし、学校全体の授業改善をリードしたい！」
- d 教員「いつかは母校で教えたい。2年後に周年行事を迎える母校に貢献したい！」
- e 教員「ルール未解消だが家庭事情で単身は難しい。負荷のある仕事であっても通勤可能な学校で頑張りたい！」
- f 教員「前任校で手掛けた探究学習の推進にもう一度関わりたい。前任校での勤務は可能なのか？」

次の赴任校で、これまでの経験やノウハウを最大限生かし、新たな挑戦をしたいという想い

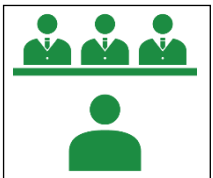
⇒ “わくチャレ”の募集内容を見て、自分の希望に合致する学校にエントリー！

※今年度からの制度の改善点

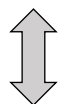
・“わくチャレ”による人事異動が成立した場合、その学校がへき地・東西交流の対象校か否かに関わらず、異動ルール東西1カウント付与(へき地・東西交流校の場合、プラス1カウント付与)

・現任校の直前に勤務していた学校へのエントリー制限を撤廃 ⇒ 前任校へのエントリーが可能

ステップ3 【校長・教員】公募する学校の校長と応募した教員との面接



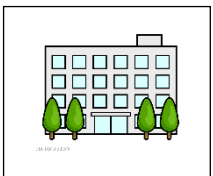
校長の想い「学校が求める教員像に合致しているかどうか。」



両者の想いが一致するかどうか、面接によって確認

教員の想い「この学校で自分が本当にやりたかった仕事ができるかどうか。」

ステップ4 【教育委員会】校長の意見具申を参考に人事異動を実施



・面接を経て提出された校長の意見具申を最大限尊重

・当該校の教科の出入り等(応募した教員の教科で転出者がいなければ異動は成立しない、など)も勘案しながら、人事異動内示を通知